

# 「みがき合い、支え合う、心豊かでたくましく生きる生徒をめざす」 ＜夏季休業の学校経営方針＞

## 【休養と準備】

まずは、1学期の疲れを十分に癒し、心身ともにリフレッシュすること。次に2学期に向けての準備を自分のペースで楽しみながら進めること。笑顔が作れるような過ごし方と準備を心がけていきたいと思います。

### (1) ストレス解消法

#### ① 「全体性の回復」…「ゆったりする時間をつくる」

同じところだけ使っていると固い金属も疲労し、壊れてしまう。頭を使ったら身体を動かす、眼を酷使したらアイマッサージをし、目を閉じて音楽を聴く、というような偏らないやり方を考え、ゆったりする。

#### ② 「カタルシス」…「たまっているものをはき出す」

大きな声を出したり、泣いたり、笑ったり、衝動買いをしたり、大騒ぎをする。ただし時間と場所をわかまえる。(一人カラオケ、新聞紙を思いっきりびりびり破く、スポーツ観戦で大きな声で応援する等々)

#### ④ 「非日常性」…「毎日の生活と違う体験をする」

旅行をしたり、誰もいないところで過ごしたり、趣味の世界に没頭したりする。

計画的な年休取得による「全体性の回復」や「カタルシス」、「非日常性」といったストレス解消により、心身ともにリフレッシュすることが、2学期からの日常業務に対するモチベーションアップにもつながってくる。昔は「夏休みは生徒の休みで先生の休みではない」と言われていたこともあるが、今はしっかりと先生方もまとまった休暇を取るべきである。各学年主任を中心に計画的に年休取得計画を立て、しっかりと自分の時間を確保していただきたい。

### (2) 2学期の準備を楽しむ！

1学期を振り返って、何が足りてないか、原因は何か、迫るべき目標は何だったか、そのために必要な手立ては何かを模索し、次のマネジメントサイクルにつなげていかなければならない。次の5項目に留意しながら個々に新たな取り組みを考え、ワクワクしていきたい。「こうなったら楽しい!」「こうすれば笑顔になれる!」という取り組みを考えるのは、次のモチベーションアップにつながってきます。

#### ① 自己研修の充実

指定されたものに出向くだけでなく、自分で学びをつくる期間である。研修は、主体的に見つけて取り組んだ時に学びがあり、楽しくなり、他に伝えたいものがある。そういう研修を探して参加していきたい。

#### ② 部活動のスムーズな移行

ほとんどの3年生にとって、最後の大会が夏休み中に行なわれる。積極的に応戦する体制を作りたい。先生方はもとより自分の部活が終わった後、友だちの大会を積極的に応援する関係をつくって欲しい。1、2年生については、新たな部活動へのスタートをスムーズに切らせたい。大切なのは目指すべき部の目標である。それは単なる結果目標ではない。なぜ優勝したいのか。何のためにトップを目指すのかを考えさせていきたい。そしてそのために必要な具体の動きを一人一人に考えさせ、行動に移させていきたい。

#### ③ 学級経営の準備

Q-U検査の結果を受けて、学年として、学級としての具体的な取組を考えたい。特にSGE(構成的グループエンカウンター)の活用については、学年で計画を立て、準備していきたい。また、要支援群の生徒については関係を断ち切ることなく、二学期につなげていきたい。

#### ④ 体育祭に向けて

リーダー指導や応援団の指導が中心となるが、「～したい」を引き出す指導を心がけていきたい。

#### ⑤ 授業準備

2学期スタートの教科の単元計画の見直しや学級活動、道徳の計画を見直していきたい。また、2学期の授業研究に向けての指導案作成やAL型授業の推進を目指し、授業改善につなげていきたい。